

## 各健（検）診の集計

### 9. 各健（検）診判定基準

## 9. 健（検）診判定基準

### ○特定健康診査判定基準

#### 血圧指導区分

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
血圧(収縮期)	～129	130～139	140～
血圧(拡張期)	～84	85～89	90～

#### 貧血・多血症指導基準

指導区分	男 子			女 子		
	基準範囲	要保健指導	要受診	基準範囲	要保健指導	要受診
赤血球数( $\times 10,000/\mu\ell$ )	365～600		～364 601～	350～550		～349 551～
ヘモグロビン量(g/dℓ)	13.1～18.0	12.1～13.0 18.1～	～12.0	12.1～16.0	11.1～12.0 16.1～	～11.0
ヘマトクリット値(%)	38.0～51.0	36.0～37.9 51.1～53.9	～35.9 54.0～	36.0～47.0	34.0～35.9 47.1～49.9	～33.9 50.0～

#### 肝機能検査指導基準 (国際単位)

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
AST (U/L)	～30	31～50	51～
ALT (U/L)	～30	31～50	51～
GGT (U/L)	～50	51～100	101～

#### 脂質検査指導基準

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
血清総コレステロール値 (mg/dℓ)	130～199	～129 200～	
中性脂肪(空腹時) (mg/dℓ)	～149	150～299	300～
HDL-コレステロール (mg/dℓ)	40～	35～39	～34
LDL-コレステロール (mg/dℓ)	～119	120～139	140～

#### 血糖値指導基準

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
朝食前血糖値 (mg/dℓ)	～99	100～125	126～
随時血糖値(食後 3.5 時間以上) (mg/dℓ)	～99	100～125	126～

#### ヘモグロビンA1c 指導基準

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
ヘモグロビンA1c(NGSP) (%)	～5.5	5.6～6.4	6.5～

#### クレアチニン値指導基準 (酵素法)

指導区分	男 子		女 子	
	基準範囲	要受診	基準範囲	要受診
クレアチニン値 (mg/dℓ)	～1.10	1.11～	～0.80	0.81～

#### eGFR 指導基準

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
eGFR 値(mi/min/1.73 m <sup>2</sup> )	60.0～	45.0～59.9	～44.9

#### 尿指導基準

指導区分	基準範囲	要保健指導	要受診
糖	—	±	+～
蛋白	—	±	+～

#### 肥満度指導基準 (男女ともに 22BMIによる)

指導区分	低体重	普通体重	肥満1度	肥満2度	肥満3度	肥満4度
B M I 指数	～18.4	18.5～24.9	25.0～29.9	30.0～34.9	35.0～39.9	40.0～

#### 眼底判定区分

基準範囲	要保健指導	要 受 診	
N正常(H0・S0)	H0・S1 H0・S2 (60歳以上) H1・S0 H1・S1 H1・S2 (60歳以上)	H0・S2 (60歳未満) H1・S2 (60歳未満) H2・S0 H2・S1 H2・S2 (60歳以上)	H2・S2 (60歳未満) H3・S1 H3・S2 S3

○事業所健康診断判定基準

検査項目	判定区分		正 常		保健指導
	肥満分類		低 体 重	普 通 体 重	肥 満
体重	BMI (22.0 基準)		18.5 未満	18.5~24.9	25.0 以上
腹囲	男		85cm>		85cm≤
	女		90cm>		90cm≤

検査項目	判定区分		基準範囲	経過観察	要精検	要医療
			基準範囲	保健指導	受診勧奨	
視力			裸眼・矯正 0.7 以上	裸眼・矯正 0.7 未満		
聴力			所見なし	所見あり		
尿	糖	【G】	-	±	+~	
	蛋白	【P】	-	±	+~	
	潜血	【B】	-	+	2+~	
	ウロビリ	【U】	±	+	- 又は 2+~	
	収縮期血圧値			~129	130~139	140~
拡張期血圧値			~84	85~89	90~	
貧血検査	Hb (g/dℓ)	【血色素量】	男 13.1~18.0 女 12.1~16.0	12.1~13.0 又は 18.1~ 11.1~12.0 又は 16.1~	~12.0 ~11.0	
	RBC (10 <sup>4</sup> /μℓ)	【赤血球数】	男 365~600 女 350~550		~364 又は 601~ ~349 又は 551~	
	Ht (%)	【血球容積比】	男 38.0~51.0 女 36.0~47.0	36.0~37.9 又は 51.1~53.9 34.0~35.9 又は 47.1~49.9	~35.9 又は 54.0~ ~33.9 又は 50.0~	
	全血比重		男 1.054~ 女 1.052~	1.053 1.050~1.051	~1.052 ~1.049	
	★ WBC (10 <sup>2</sup> /μℓ)	【白血球数】	33~86	30~32 又は 87~149	~29 又は 150~	
	★ IRON (μg/dℓ)	【血清鉄】	40~188	31~39 又は 189~	~30	
血糖	空腹時血糖 (mg/dℓ)		~99	100~125	126~	
	随時血糖		~139	140~199	200~	
	HbA1c (NGSP)		~5.5	5.6~6.4	6.5~	
脂質	TG (空腹時) (mg/dℓ)	【中性脂肪】	~149	150~299	300~	
	★ T-CHO (mg/dℓ)	【総コレステロール】	130~199	~129 又は 200~		
	HDL-CH (mg/dℓ)	【HDLコレステロール】	40~	35~39	~34	
	LDL-CH (mg/dℓ)	【LDLコレステロール】	~119	120~139	140~	
肝機能	AST (GOT)	(U/L)	~30	31~50	51~	
	ALT (GPT)	(U/L)	~30	31~50	51~	
	GGT (γ-GTP)	(U/L)	~50	51~100	101~	
	★ ALP (U/L) (IFCC)		38~113	~37 又は 114~157	158~	
	★ LD (U/L)		124~222	~123 又は 223~299	300~	
腎機能	SUN (mg/dℓ)	【尿素窒素】	~20.0	20.1 ~		
	CRTN (mg/dℓ)	【クレアチニン】	男 ~1.10 女 ~0.80		1.11~ 0.81~	
	eGFR 値 (mℓ/min/1.73 m <sup>2</sup> )		60.0~	45.0~59.9	~44.9	
	UA (mg/dℓ)	【尿酸】	男 3.6~7.0 女 2.3~7.0	~3.5 又は 7.1~7.9 ~2.2 又は 7.1~7.9	8.0~ 8.0~	
血清	HCV-A b		-		+	
	HBS-A g		-		+	
★ 膵	アミラーゼ (U/L)		44~132	~43 又は 133~199	200~	
眼底	所見分類		N 正常 (H0・S0)	H0・S1	H0・S2 (60歳未)	H2・S2 (60歳未)
				H0・S2 (60歳以)	H1・S2 (60歳未)	H3・S1
				H1・S0 H1・S1	H2・S0 H2・S1	H3・S2
				H1・S2 (60歳以)	H2・S2 (60歳以)	S3

※ 尿糖検査結果の判定については血糖検査を併せて行なっている場合、血糖検査結果の判定が優先されます。  
 心電図は別紙特定健康診断判定基準に準じております。 \* 視力、聴力、尿項目は健診医による判定となります。  
 T-CHの判定は、LDL-CHが必須項目に加わったことから、LDL-CHの判定が優先されます。  
 随時TG (中性脂肪) 値については参考値として上記判定区分に従います。  
 尿酸測定値 2.0mg/dℓ以下の場合、先天性疾患も考えられますので再検査をおすすめ致します。  
 ALP測定値 158U/L以上、LD測定値 300IU/L以上の方はさらに詳しいアイソザイム検査等の精密検査をおすすめ致します。  
 (★印) 法定外検査項目は健康診断個人票に基準範囲が記載されていません。

◎ 健診医や判定医が受診者年齢や他検査の成績を考慮して判定区分を変更する場合があります。

## ○骨粗鬆症検診判定基準

### 1、目的

骨粗鬆症は骨折等の基礎疾患となり、高齢社会の進展によりその増加が予想されることから、早期に骨量減少者を発見し、骨粗鬆症を予防することを目的とする。

### 2、判定の基本方針

(1) 骨密度測定 (D X A法 前腕骨遠位部)

(2) 問診

- 1) 骨密度と共に判定に加味する
- 2) 実施主体の指導に活用してもらう
- 3) 今後の判定基準法確立の参考とする

異常なし	I	0.581以上かつ同年代の平均以上			
	II	0.581以上かつ同年代の平均未満			
要指導	III	0.517～0.580			
	IV	0.452～0.516			
		0.415～0.451	A以外	月経	55歳以下で腰痛 (-) かつカルシウム摂取十分
				無回答	56歳以上で腰痛 (-)
				閉経	腰痛 (-)
				月経有	腰痛 (-) かつカルシウム摂取十分
0.388～0.414	Aかつ腰痛 (-) かつカルシウム摂取十分				
要精検	V	0.415～0.451	A以外	月経	55歳以下で腰痛 (+) またはカルシウム摂取少ない
				無回答	56歳以上で腰痛 (+)
				閉経	腰痛 (+)
				月経有	腰痛 (+) またはカルシウム摂取少ない
	0.388～0.414	Aかつ腰痛 (+) またはカルシウム摂取少ない			
		A以外			
0.388未満					
0.516以下		手首又は背骨の骨折歴あり ※上記条件と重複した場合、本条件を優先する			

- \* 受診日時点での年齢とする。
- \* 前回骨密度とは、平成28年度以降のデータとする。  
平成28年度以降のデータがない場合、初回扱いとする。
- \* カルシウム摂取については、「はい」が5項目以上で十分とする。
- \* 骨折歴は骨折時年齢が56歳以上の場合該当とする。

○子宮頸がん検診 2010 年度細胞診判定基準（ベセスダシステム 2001 併記）

判定	ベセスダシステム 2001 (TBS2001)			推定病変		
	扁平系	腺系	その他	扁平系	腺系	その他
再検査	検体不適正（判定不能）*			扁平上皮細胞数の不足、過度の乾燥によるアーチファクト、非常に強い炎症細胞および血液の混入などによって細胞の観察が困難		
正常	NILM			正常上皮		
要精検	LSIL	AGC		非腫瘍性病変	腺異型あるいは腺癌疑い	
	HSIL			HPV 感染あるいは軽度異形成		
		中等度異形成				
		高度異形成				
	AIS	上皮内癌・微小浸潤癌	上皮内腺癌			
	SCC	Adenocarcinoma	Other malig.	間質浸潤を伴う扁平上皮癌	間質浸潤を伴う腺癌	扁平上皮癌・腺癌以外の悪性腫瘍、または続発性、転移性腫瘍

\* 再検査対象検体について

ベセスダシステム 2001 では、従来法で扁平上皮細胞 8,000 個未満、液状検体で 5,000 個未満を検体不適正と判定しますが、秋田県においては、従来法で 8,000 個未満、液状検体で 5,000 個未満の検体を更に判定可能・判定不能に分け、判定不能検体について再検査とした。

○子宮体がん検診：細胞診判定基準順

判定	細胞判定	細胞所見
精検不要	陰性	細胞異型ならびに構造異型を認めない。腺管構造が性周期に一致している。
要精検	疑陽性	細胞異型ならびに構造異型がみられるが、腺癌由来と決定的に言える細胞が認められない。
	陽性	癌由来と判定される細胞がみられる。

○前立腺がん判定基準

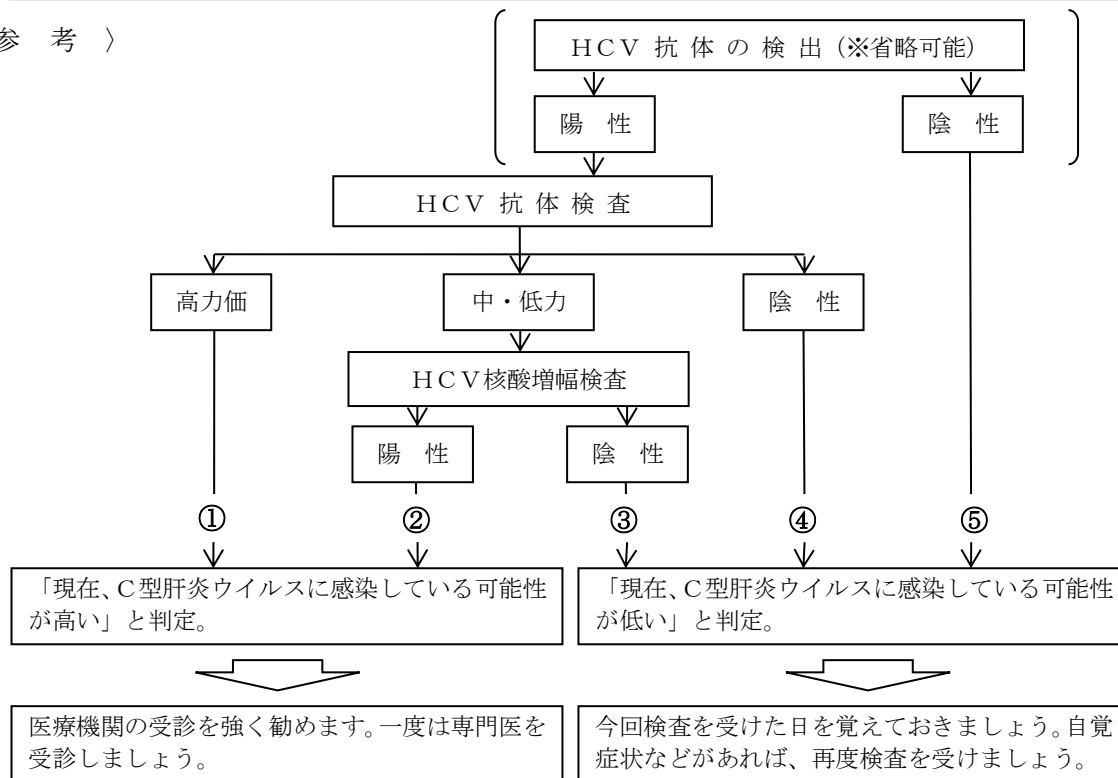
異常なし	65 歳以上：トータル PSA 値	3.5 ng/ml 未満
	65 歳未満：トータル PSA 値	3.0 ng/ml 未満
要精密	65 歳以上：トータル PSA 値	3.5 ng/ml 以上
	65 歳未満：トータル PSA 値	3.0 ng/ml 以上
受診勧奨	PSA 値が正常であっても、問診項目（1～5）のいずれかに「はい」と答えた者は、PSA 値に関わらず泌尿器科受診をすすめる。	

## 〇〇型肝炎判定基準

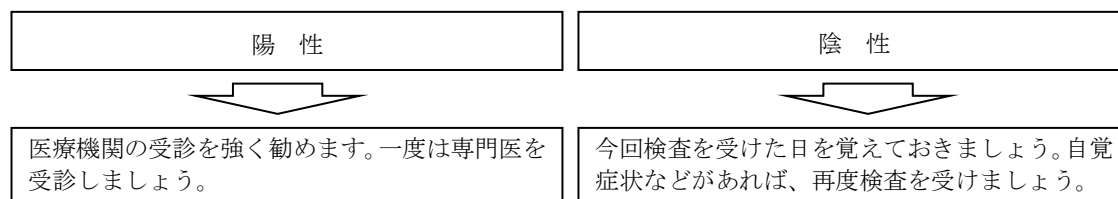
### 判定結果（C型肝炎ウイルス検査）

- |  |
|--|
| 1. 「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定されました。 |
| 判定理由 ① ②                               |
| 2. 「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が低い」と判定されました。 |
| 判定理由 ③ ④ ⑤                             |

〈 参 考 〉



### 判定結果（HBs抗原検査）



〈注意事項〉

日常生活の場では、C型肝炎ウイルス（HCV）に感染することはほとんどないことがわかっています。したがって、毎年くり返してC型肝炎ウイルス検査を受けなくても、現在のところ、上図に示す手順を踏んだ検査を1回受ければよいとされています。

なお、2. 「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が低い」と判定された場合でも、C型肝炎ウイルス（HCV）以外の原因による肝炎になる可能性があること、検査後新たにC型肝炎ウイルス（HCV）に感染する場合（きわめてまれとされています。）があること、検査による判定には限界があることなどもありますので、身体のだるさ等の症状や肝機能異常を指摘された場合などには、必ず医師に相談してください。

また、HBs抗原検査が陰性となった場合にも、身体のだるさ等の症状や肝機能異常を指摘された場合などには、必ず医師に相談してください。